

やまがた 観光復興元年

1面から続く

蔵王温泉で旧白洲山荘「ヒュッテ・ヤレン」の修復・

ハイキングコースや登山道、林道などアップダウンのある自然の中のルートを走るトレイルランニング(トレラン)。愛好者の増加に伴って近年、全国各地で年間200近い大会が開かれていて、千人近い愛好者が集う大会もあり、「山岳リゾートとしての魅力発信」といった効果も注目されている。



スキー場に設けられたコースを駆け上がる参加者。競技人口の増加を受け、全国各地でトレイルランニングの大会が開かれている。6月15日、山形市蔵王温泉し、地元での協力が得やすかった。

自然環境に配慮

新しいスポーツとして脚光を浴びるトレランだが、逆風も吹き始めている。多くの人が山を走れば自然環境への影響は避けられない。「スポーツ関連企業やイベント会社が主催する大会は、たくさん人が集まらなければもうからない。その分、自然環境への配慮に欠ける」と矢口さん。

第6部 アウトドアツーリズム③

新たな楽しみ方発信

■勝手連的に応援
今年6月、山形市の蔵王

トレランに向く蔵王

温泉で初の「ヒュッテ・ヤレン杯蔵王温泉国際トレイルランニング大会」が開かれた。主催団体は東京都のNPO法人「元氣・まちネ

資源にも恵まれ、何よ影響を極力避けてコースを設定。一般登山客への配慮も怠らなかつた。「地元を

コースは蔵王体育館を囲い、残り1割が首都圏などからだった。蔵王は、冬季以外は遊休地となるスキー場や標高差が約2000人の参加者のうち、県内は6割で、3割が仙台

な知名度がある。半面、スキー人口の減少などに伴い、苦戦を強いられている。矢口さんが大会開催時期を6月にした理由の一つは、「スキーと避暑の端境期は温泉街の観光客数が一段落

が観光誘客に果たす可能性をそう語った。